

【コラム1】 批判的思考教育の円環的コラボレーションを進めるために

楠見 孝（京都大学）

批判的思考とは、証拠に基づく論理的で偏りのない思考である。学校での学習だけでなく、日常生活や職業生活において、話を聞く、文章を読む、メディアから情報を集める、自分の考えを述べる、問題解決・決定する時などに働いている。これは「相手を批判する思考」とは限らず、むしろ自分の推論過程を吟味する内省的思考である。たとえば、福島第一原子力発電所事故の放射能による健康被害について、いまでも不確かな情報が錯綜しており、市民に十分な情報が提供されているとは言い難い。したがって、市民ひとりひとりが情報を批判的に吟味し、判断・行動することが求められている。

私は、大学の研究者として、批判的思考のプロセスやメカニズムを解明するための基礎研究を進めている。たとえば、人の思考において誤りが生じる要因を心理学実験によって明らかにし、メタ認知、推論、意思決定や問題解決という側面から理論的に説明してきた。さらに大学の初年次教育から専門教育の各段階において、批判的思考のできる市民、専門的職業人、研究者を育てる教育実践を進めてきた[楠見・子安・道田 2011]。しかし、批判的思考力を育成するには、大学教育だけでは十分でなく、小中高からの一貫した教育や市民に対するアプローチが必要である。そのためにも、小中高校の先生やマスメディア、コミュニティとのコラボレーションが重要だと考えている。

第一のコラボレーションは、小学校・中学校・高校において、体系的な批判的思考教育をおこなうための連携である。そこで私たちが進めているのは、児童・生徒の批判的思考態度や批判的学習スキルが、学年によってどのように発達するか、どのような学習活動が影響を及ぼすのかを明らかにすることである[楠見 2011, 楠見・田中・平山・富江 2007]。さらに、批判的思考の教授法、教材、測定ツールの提案を通して、教育改善に貢献することを目指している。

第二のコラボレーションは、マスメディアやジャーナリスト、行政の広報担当者との連携である。これは、コラボレーションによって、市民の批判的思考態度や知識を向上させるコミュニケーションの方策を考えることである。いたずらにセンセーショナルな報道をしたり、全く知識がない者と扱って一方向的な説明をするのではなく、市民の生活経験に基づく考え方を考慮した上で、対立する議論とその根拠を提示すること、そして市民が適切な情報を収集し、熟考したうえでの意思決定や行動ができるように支援することが重要である。

第三は、批判的コミュニティを形成するためのコラボレーションである。これは、家族、学校、職場、地域において、批判的思考に基づく対話ができる場をつくるための実践であ

る。ここでは、自分自身で適切な情報を集め、人に正確に伝え、協同して問題を解決することが大切となる。さらに、電子掲示板のように見知らぬ人から構成され、空間を越えて結びつくネットコミュニティを批判的な議論のできる場とするには、どのようにすればよいかは今後の重要な検討課題である。

以上述べてきた3つのコラボレーションは、批判的思考に関する大学の研究を社会において役立てるとともに、大学における研究成果のリアリティの検証と、新たな問題発見の場となる。その点で、大学と社会との円環するコラボレーションである。こうしたコラボレーションに基づく批判的思考の教育は、生涯にわたって自律的に学ぶ良き学習者、さらに個人や社会の問題を適切に解決する良き市民を育てることにつながると考える。そして、市民がより良い決定を重ねていくことが、個人のそして社会全体の幸福につながると考えている。

■引用参考文献

楠見孝 2011 「高校生の批判的思考態度と学習スキル—スーパーサイエンスハイスクールにおける学習活動の効果」『日本教育心理学会第53回総会発表論文集』 p.47

楠見孝・子安増生・道田泰司 2011 『批判的思考力を育む—学士力と社会人基礎力の基盤形成』有斐閣

楠見孝・田中優子・平山るみ・富江宏 2007 「高校国語科における批判的読解指導の効果」『日本教育心理学会第49回総会発表論文集』 p.63